

## 商学部協定校留学報告書(パリ商業高等学校)

留学期間：2015年9月～2015年12月

商学部3年

### ☆出発前の準備（留学の目的と学習計画、入学許可申請、外国語能力、留学費用、奨学金、健康保険・旅行保険、ビザなど）

私は9月より、商学部の学部間協定校である、フランス・パリのISC Paris Business Schoolへ留学した。留学を決めた理由は、2年生中盤から、これからの大学生活について考え始め、このまま大学生活を終えて良いのか、と考えるようになっていた。私は高校時に、1年間の留学経験があり、留学における多くの新しい経験を通して、楽しい思い、辛い思いを乗り越えた先に、たくさんの大切な事が学べるということ、新しい自分に出会えるということ、身を以て知っていたため、再びチャンスがあれば、実のある経験がまたしたいという思いが強くなっていた。そこで見つけたのが、この学部間協定校である。当時高校の頃からフランス語を少し勉強しており、大学での第二外国語もフランス語を履修していたこともあり、言語についてはまず興味があった。文化についても、以前1度フランスへ旅行したことがあり、その際の良い思い出と、ゼミでもフランスの文化や習慣、現状、諸問題などについて勉強していたため、フランスには縁があった。今回学部間協定校の募集校を見ていた時に、ISC Paris Business Schoolの文字を見つけ、これだと思い、応募した。私は元々ブランディングに興味があり、世界の大から小までの規模の企業が集まり、様々なプロデュースを通してブランドが作られていく、このパリという土地で、実際にビジネスを勉強したかった。もはやパリという街自体にネームブランドがついており、誰もが憧れるまでに至ったこの世界的なブランドプロデュースは、この都市の、どのような節から生まれたのか、とても興味があったため、その空気を肌で感じたく、パリのビジネススクールを選んだ。

出発までの手続きは、一つ一つしっかりと行っていく必要があり、量も私にとっては多かった。特に、ビザ取得まではステップがいくつかあり、準備する書類も多いので、時間がかかる。そのため、早めから余裕をもって用意した方が良いと思う。

外国語能力に関しては、英語は以前留学していたこともあり、生活できる程度はできたが、フランス語に関しては、本当に初心者だった。単語力も、文章作成も、発音も自信がなく、とてもフランスで生活していけるようなレベルではなかった。2年で1年間プラスワンの授業を履修し、そこで文法や文章構成などを習い、3年前期に上級フランス語の授業を履修したことで、少しは文章の仕組みや単語、会話についての知識は向上したと思うので、ぜひフランス語の授業はできるだけ多く履修した方が良いと思う。

### ☆協定校での諸手続き

次に、協定校での手続きだが、1年留学する場合は、フランス移民局との手続きなど、色々あるようだったが、半年留学の私にとって1番大事な手続きは、履修希望する授業の登録だっ

た。ネットと書類、両方あるのだが、ネットでの登録方法が少しややこしかったが、それ以外に特に難しい手続きは私の場合なかった。

## ☆宿舎と日常生活

パリで私はアパートの1室を借りて一人暮らしをしていた。日本でも一人暮らしをしていた事もあり、その事への不安はなかったが、いざ暮らしてみると、生活の中で度々戸惑う事はあった。至れり尽くせりの日本とは違い、フランスのアパートはほとんどが大変古く、日本で当たり前に出来ていた事も、一筋縄ではいかないことが多い。大家さんとの交渉に困ったり、シャワーのお湯が出なくなったりと、トラブルはたくさんあった。また、外には日本のように24時間買い物ができるコンビニエンスストアはなく、日曜はほとんどのお店が閉まっているため、時間、曜日を中心にきちんと入れながら生活をしていた。

## ☆協定校のカリキュラム・履修した授業、課外活動、留学の成果

ISC Paris は、明治大学に比べると大変小さく、学校自体も都心から離れた所にある。ISCの特徴として私が驚いたことは、委員会のような、多種多様な役職に分かれた学生の機関が多数あることだ。ビジネススクールのため、生徒が企業や組織と直接交渉ビジネスをしながら、学校を自分たちで作っていく、というシステムである。生徒、先生の境なく、大学事務室と同じ並びに、生徒達の機関の部屋がいくつも並んでいる。私は参加しなかったが、留学生でも参加可能で、仕事は多いがやりがいがあると、実際に所属していた留学生の友達が言っていた。私たち留学生のお世話も、その専門の委員会に全て任されている。もちろんメンバーは、共に授業を受ける同じ年代の生徒である。実際、ビジネスを大学生のうちから本格的に応用できることは、責任感、交渉力、協調力など多くの能力を磨け、社会に出てから大変役に立つだろうと思った。

授業に関しては、私は8科目の授業を履修した。商学部の基礎的な授業から、私の希望したブランディングの授業、フランス語の授業、そしてフランスの文化を学ぶために多くの留学生が履修しているワインの授業などである。フランス語と英語で行われる授業があり、どちらも選べるが、私は全て英語で履修した。英語に馴染みがあっても、授業の内容を全て理解するのは、かなり難しかった。専門的な用語や言い回し、出される課題に苦戦する事も多かった。私が感じた、フランスと日本の大学の授業の違いの一つは、生徒の発言量だと思う。海外の大学は多くがそうであろうが、授業内では発言する事が必ず求められる。自分の意見を持たない、持っていたとしても発言しなければ、授業に参加していないものとして見なされる。これは、単に授業内の事だけではなく、フランス人は他人の意見を求め、議論することが好きのため、例えば普段の会話の中でも、「あなたはどう思う？」と必ず意見を聞かれる。日本人は私を含め、あまり自分から意見を述べないので、最初は正直戸惑ったが、慣れるうちに、意見を出し合い議論する事が楽しいと思えるようになった。また、他に私が感じた日本とフランスの大学の相違点としては、プレゼンテーションが非常に多かった。それも、自分一人で行うプレゼンテーションではなく、4人程度のグループで行うプレゼンテーションがどの授業でも必ずあった。日本の大学の授業でもプレゼンテーションはあるが、ゼミや少人数授業で行われるものが多いと思う。しかしISCパリの授業では、多人数授業であったとしても、ほとんどの授業でプレゼ

ンを行う。そして総じて思った事は、勿論プレゼンテーションの内容も先生は評価するが、内容と同じくらいの比率で、語り方、ジェスチャー、スライドのクオリティなど、プレゼンスキルがチェックされる。いかに内容がよくても、声が小さかったり、ふらふらして前をしっかりと見ていなかったりすると、その場で注意を受けて減点される。私も ISC で多くプレゼンテーションを経験したが、その点に注意しながら、相手に分かりやすく伝えようという気持ちを大切にしながら実際に行っていた。

私が今回の留学で得られたものは、語学はもちろん、積極性、コミュニケーション能力、自信、強さ、プレゼンテーションスキル等、多くある。日本を離れ、身内や友達が誰もいない中、一人異国の地で暮らす事は、自分自身を大きく成長させてくれる。留学は楽しい事ばかりではなく、上手いかずに悩んだり、困難な状況に強いられたり、辛い事もたくさんある。しかし辛い時こそ、自分を成長させるチャンスだと思う。自分自身で悩み、考え、解決するために動き、その壁を乗り越えたときに初めて、物事の考え方や行動の仕方を学び、今までの自分になかったものを身につけられる。その経験は後々、必ず自分の役に立つ時がくることを、私は知っている。今回の留学で得られたものは、自分の人生の財産になると思う。

#### ☆商学部学生へのメッセージ

今留学をするか悩んでいるみなさん、商学部の学部間協定校留学は、留学をしたいと思っているみなさんにとって、とても良いチャンスだと思います。サポート面に関しても安心できるし、商学部の勉強を、明治以外の環境でできる機会は本当に貴重です。少しでも留学に興味があるのなら、まずは一歩踏み出してみることをお勧めします。きっと、行けば良かったと思う事はあるかもしれないけれど、行かなきゃ良かったと思う事はないと思います。留学の準備としては、英語の勉強と、行く国の語学、文化を基礎だけでもよいので知っておくと良いと思います。また、日本についてもよく理解しておいた方が良いです。外国の方は日本にとっても興味があるので、日本の文化や問題などをたくさん聞いてきます。他の国の留学生や現地の人々は、自国の事について大変よく知っていますが、案外日本人は、自分の国のことを知らないのです、同等に話せるように日本人の特性、習慣、文化や問題などを勉強しておくこともお勧めします。ぜひ、学生時代の留学を経験してみてください。応援しています。